

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23710313

研究課題名(和文) 東南アジア大陸部における焼畑の変容過程の比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Shifting Cultivation in Mainland Southeast Asia: Household Level Analyses of Land-use History and Socio-economic Change

研究代表者

増野 高司 (MASUNO, Takashi)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：40569159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：東南アジア大陸部の各国において、とくに1980年代以降になると、焼畑が衰退し常畑での農耕が拡大していた。焼畑から常畑への転換に関し、その要因を見てみると、森林保護政策なども含めた国家による広義の土地政策、除草剤・化学肥料の利用そして刈り払い機の利用など新たな農業技術の導入、換金作物栽培の拡大、などが大きな影響を与えたと考えられる。焼畑が営まれてきた地域における住民の生計維持に向けて、焼畑時代の慣習的な土地権の管理様式を土地法のなかで取り扱う方法、そして焼畑をも包含できる「自然」保護のありかたを検討してゆく必要がある。

研究成果の概要(英文)：In the hillside areas of mainland Southeast Asia, the predominant agricultural method has been changing from shifting cultivation to permanent farming, particularly since the 1980s. This change in agricultural method was brought about by new governmental land policies; technological innovations, such as weed cutters, herbicides and chemical fertilizers; and the expansion of area for cash crop cultivation. To maintain the livelihood of shifting cultivators, improved land laws that consider local customary land use and nature conservation are required.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：東南アジア

キーワード：焼畑 生業複合 森林保護政策 少数民族 出稼ぎ 陸稲 ミエン(ヤオ)族 都市への適応

## 1. 研究開始当初の背景

焼畑は世界の熱帯および亜熱帯地域で広く行われる農法のひとつである。その特徴は、畑の短期の耕作と、それよりも長い休閑期間との組み合わせにある。焼畑はタイ、ラオス、ベトナム、カンボジア、ミャンマーおよび中国雲南省から構成される東南アジア大陸部においても、山地民と呼ばれる人びとなどによって広く営まれてきた。焼畑を生業とする民族集団にとっては、焼畑耕作は単なる食料生産の方法や経済活動というだけでなく、民族文化と深く結びついた生業である。

しかし、焼畑耕作は各地で変容、もしくは衰退している。休閑期間の短縮をはじめとした経営様式の変化が指摘されるとともに、その要因として、商品経済化や国家政策などが挙げられてきた。また、1980年代末以降になると、森林保護の観点から焼畑を実質的に禁止する土地政策や森林保護政策が各国で推進されている。例えば、タイではいち早く1980年代から政策により積極的に焼畑が抑制され、その衰退が進んだ。また、ラオスでは1990年代以降、さまざまな農村開発政策が推進されている。例えば、ラオスでは焼畑は2010年の全廃が国家の目標とされているという。このように、焼畑抑制への関心は高いにもかかわらず、焼畑の実態や住民の生計維持の方法に関する情報は驚くほど少ない。GIS情報を用いて流域を単位とした農地や森林の分布が把握される一方で、焼畑が卓越してきた地域において、住民が実際にどのように農地を利用し、どのような生計活動を営んできたのかに関する情報が、研究者だけでなく、政策の決定に関わる国際機関や行政機関から求められている。

## 2. 研究の目的

東南アジア大陸部の各国においては、土地管理および森林保護の観点から焼畑を抑制する政策が実施された結果、焼畑を営んできた住民の生計をいかに維持するのかが現在の緊急課題となっている。

本研究は、タイ北部の村落とベトナム北部の村落を事例として、畑の利用歴に着目すると同時に、国家政策や商品経済の影響に伴う生計活動の変化を比較分析することで、両国における焼畑の変容過程の特徴を示すことを目的とする。そして従来、焼畑が卓越してきた東南アジア大陸部における、焼畑やその跡地の管理や住民の生計維持に向けた指針を提示する。

## 3. 研究の方法

### 焼畑の変容過程の把握

タイを中心にその周辺国を対象として、国家政策や商品経済化の影響に着目しながら、焼畑の変容過程を明らかにすることを第1の目的とする。具体的には「現地踏査」および、畑の耕作者たちへの「聞き取り調査」から、焼畑の衰退過程を明らかにする。

### 生計活動の変容過程の把握

焼畑を営んできた人びとは、焼畑の衰退とともに、生計活動を柔軟に適応させることで、生計を維持している。生業および経済活動の複合性に着目して、焼畑の衰退とともに生計活動の変遷を把握する。

### 焼畑の変容過程および生計維持方法との関係の把握

本研究の研究成果に、他の東南アジア諸国の焼畑耕作に関する文献研究の成果を加えて比較検討を行うことから、各地における焼畑の変容過程と住民の生計活動の変容過程との関係を議論し、従来、焼畑が卓越してきた東南アジア大陸部における、焼畑やその跡地の管理や住民の生計維持に向けた指針を提示する。

## 4. 研究成果

### (1) 焼畑の変容過程の把握

タイ北部パヤオ県に位置するミエン族が暮らす山村(PD村)では、1990年代中頃に休閑を設けない常畑でのトウモロコシ栽培の拡大とともに焼畑が急速に衰退した。そして、このトウモロコシの販売は2013年においてもPD村の村民の中心的な現金収入源となっている。

PD村における焼畑衰退期における出来事を見てみると、1987年頃の車道の開通、1991年の森林保護区の設定、1990年代中頃からのトウモロコシ栽培の拡大と除草剤および化学肥料の利用の拡大、そして1990年代中頃以降の焼畑の衰退となる。森林保護区の設定は焼畑の衰退に影響を与えた要因のひとつと考えられるが、例えば、除草剤と化学肥料の導入など、他にもさまざまな要因が焼畑の衰退に関係している。トウモロコシが販売できるのは車道が出来たからである。また、車道ができてアクセスが容易になったことで森林保護区の管理が可能になっている。さらに住民側も、除草剤と化学肥料を利用することで、休閑期間を設けることなく雑草を処理することができるようになったため、住民自身の選択として焼畑をやめ、より多くの収入を求めて常畑でのトウモロコシ栽培を推進した。

PD村の事例を見てみると、1980年代末から1990年代末の約10年間に村の生活が大きく変化したことがわかる。焼畑の衰退は、この10年間に起きた上記の要因を中心に、さまざまな要因が絡み合うなかで生じたと解釈すべきだと考えている。

つぎにベトナム北部のバビ山(Ba Vi Mountain)のふもとに暮らすようになったミエン族が暮らす村(N村)の事例をみている。H村に暮らすミエンの先祖は1800年代にバビ山にやってきたとされている。山腹で焼畑により陸稲を生産していたようである。大きな変化が起きたのは、1950年代中頃に入り、ベ

トナム政府が山中に暮らす人びとの移住政策を推進するようになってからである。そして1960年代に入り移住政策が強化されると、1968年までにミエンの人びとのほとんどが山腹から山の裾野へと住居を移した。そして1991年になるとパビ山は国立公園とされ、その土地利用は極めて困難になった。山の裾野に居を移したミエンの人びとは水田稲作に従事するようになっていく。

### (2) 生計活動の変容過程の把握

タイ北部のPD村の事例では、焼畑の衰退時期に換金用のトウモロコシ栽培が拡大していた。1991年に設定された森林保護区では、設定と同時期にウシの林間放牧が開始されている。ウシの林間放牧は1990年代の間は成功していたが、2000年代に入ると、トウモロコシへの食害が頻発し、2005年までに住民のほとんどが、ウシの林間放牧から撤退している。2003年にはゴムの木の苗を植樹する世帯が現れている。そして2009年にはゴム樹脂の収穫をする世帯が現れた。

トウモロコシやゴムなど農業での変化が起きるいっぽうで、1990年代になるとバンコク周辺地域などへ出稼ぎに出るものが現れている。出稼ぎは若い世代を中心に定着している。さらに2012年になると世帯を挙げて都市部に出稼ぎに出る世帯が現れている。2013年には、村に残り農業に従事する者がみられるいっぽうで、出稼ぎも一般化している。とくに2010年頃からは、屋台での豆乳販売業に従事する者が増えている。村民の都市部での生活に対する適応が求められている。

ベトナム北部のH村の生業複合について見てみると、各世帯が大きく、農業、非木材林産物の採集・販売そしてブタを中心とした家畜飼育に従事している。まず農業では水田での水稲耕作により自給用の米を生産している。また丘陵地において自分の家で飼育するブタの餌に用いるトウモロコシを栽培している。

つぎに非木材林産物の採集・販売では、おもにタケノコの採集・販売そして薬用植物の採集・販売が行われている。現在もパビ国立公園に区分された区画のなかに、かつて住民が植えた竹林があり、タケノコを採集している。タケノコは家に持ち帰り、茹でたのちに業者に販売する。薬用植物の採集・販売では、さまざまな薬用植物の採集・販売がおこなわれている。いくつかの薬用植物を調合し薬を作る者も一部にあり、世帯によっては極めて大きな収入を得ていると聞いた。ベトナムではミエンの人びとは薬用植物に関する専門的知識を持つ民族として知られているとのことである。

そして各世帯がブタを中心とした家畜飼育に従事している。ブタは家に隣接したブタ小屋で飼育されている。ブタの種類として、小型の黒色のブタ、そして大型の白色のブタ、そしてイノシシと黒色のブタを掛け合わせ

たイノブタの大きく3種類を確認した。ブタは新年祭に供犠動物として利用するのに必要であるが、白色のブタを中心に、ブタは販売を目的として飼育されており、住民の中心的な現金収入源となっている。

H村の住民は、焼畑時代から続くブタ飼育とともに、かつて山腹で焼畑を営みながら暮らしていた時代の植物に関する知識を、効果的に利用することで生計を営んでいる。

### (3) 焼畑の変容過程および生計維持方法との関係の把握

東南アジア大陸部の国々について、焼畑の衰退状況を見てみると、タイのようにすでにほとんど営まれなくなった国があるいっぽうで、ラオス北部やミャンマーのように焼畑が衰退しつつも、いまなお継続されている国もある。タイでは1970年代までは焼畑を営む姿が容易に観察できたと考えられるが、近年はタイ北部の中でもミャンマーとの国境付近の地域で細々と行われるのみとなっている。

また、東南アジア大陸部からは外れるが、東南アジアを見渡してみると、20世紀初頭では、バングラデシュのチッタゴン丘陵、ボルネオ島、インド東北部では焼畑が、変容しつつあるものの、比較的維持されている。いっぽうで、ネパールの山間地域では焼畑が営まれていたが、19世紀までに常畑での農耕と家畜飼育に変化したという。またインドネシアのなかでもジャワ島では20世紀初頭までに焼畑が常畑に転換したという。日本でも1950年代には焼畑が各地で営まれていたことを考えると、過去2世紀ほどの歴史のなかでも、比較的早い段階で焼畑が衰退した地域があることがわかる。

1960年代以降、東南アジア大陸部の社会および焼畑に影響を与えた原動力として、人口増加、戦争（例えばベトナム戦争）、政策の転換、市場経済化が挙げられている。ラオスを例に挙げると、1975年にラオス人民民主共和国が成立し、社会主義と計画経済を開始している。しかしながら、この枠組みは行き詰まり、1986年に市場経済化に向けた政策に転換している。さらに、ラオス政府が1990年代に、森林資源と生物多様性の保護のために実施した土地・森林政策によって村落の慣習的な土地利用が制限されたという。東南アジア大陸部の国々は1960年代以降、さまざまな社会変化の影響にさらされていることが確認できる。

焼畑は休閑をともなう農業様式であり、休閑を持つことこそが焼畑の特徴である。そのいっぽうで、近代的な土地法は、長期にわたる占有・使用を前提としている。近代的な土地法のもとでは、一見利用されているように見える焼畑の休閑地は、捉えがたい存在となっている。焼畑を営む人びとからすると、休閑地は除草作業の軽減のために必要なものであり、休閑地は、ときには放牧地、ときには有

用林産物採集の場，そしてときには野生動物の生息地なのである．休閑している土地は，利用を放棄した土地ではないが，焼畑は近代的な土地法に，なじみにくい特徴を持っているといえる．焼畑地域では，焼畑を生業とする人びとのためにも，慣習的な土地権の管理様式を土地法のなかで取り扱う方法が，もっと積極的に検討されるべきである．

このような，近代的な土地法の考え方に加えて，近年，焼畑の存在を揺るがしつつあるのが，世界に普及しつつある自然と人間とを二分することによって自然を保護する，自然保護の考え方である．この自然保護の考え方の代表例が，国立公園の設定である．具体的には，1872年に世界で初めて作られたアメリカの国立公園の名にちなみ「イエローストーンモデル」として知られるものである．アメリカでは当時，アメリカの大自然を自然のまま保護するために先住民のインディアンを排除して国立公園を設定したのである．この自然保護の考え方は世界中に広まり，自然保護区の設定などの形で，自然を利用した生業を営む人びと，例えば焼畑を営む人びとの暮らしを脅かしている．今もなお世界各地で新たな国立公園や自然保護区が設立されているが，そこには例えば焼畑を生業とするような地域住民の暮らしがある．彼らが長年暮らしてきたにもかかわらず，豊かな森林が残っているという事実を無視して，その森林を保護するために森林保護区からの立ち退きを迫ったり，森林資源の利用を禁止したりするのは理不尽である．

「イエローストーンモデル」に代表されるような手付かずの自然のみを貴重なものとする自然保護の考え方のもとでは，焼畑の存続は難しい．焼畑地域に森林が残っていることを冷静に考えれば，自然と人間との間に線引きをし，二分することはばかりが得策ではないことは明らかである．人為が加わった自然をも「自然」と考える，アジアの自然観に基づいた，焼畑も包含できる「自然」保護のありかたが積極的に検討されるべきである．

本研究課題の成果の一部は，「アジアの焼畑(増野，2013)」として報告しているので，詳細な情報については，増野(2013)を参照していただきたい．

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

Masuno, T. 2012. “Peasant Transitions and Changes in Livestock Husbandry: A Comparison of Three Mien Villages in Northern Thailand.” *Journal of Thai Studies*. 12:43-63. (査読付き)

Masuno, T., N. A. Luu Dam, V. D. Nguyen and P. J. Matthews 2012. “Fodder sources and

backyard pig husbandry in BaVi, Hanoi province, northern Vietnam.” In: ANINUE2012 ed. *Proceedings of the 1st International conference on Animal Nutrition and Environment* (ANINUE2012). Thailand: Khon Kaen University Press. pp. 657-660. (査読付き)

Masuno, T. 2012. “Initial Observation of Muscovy Duck Husbandry Trial in a Mien Hillside Village, Northern Thailand.” In: ANINUE2012 ed. *Proceedings of the 1st International conference on Animal Nutrition and Environment* (ANINUE2012). Thailand: Khon Kaen University Press. pp. 661-665. (査読付き)

Nishino, T. and T. Masuno. 2012. “Current Situation of Small-scale Aquaculture in a Hillside Village, Northeast Thailand.” In: ANINUE2012 ed. *Proceedings of the 1st International conference on Animal Nutrition and Environment* (ANINUE2012). Thailand: Khon Kaen University Press. pp. 887-890. (査読付き)

増野高司(2011)「タイ北部における陸稲の耕作地をめぐる在来知 - ミエン族と陸稲との関係 - 」『生き物文化誌学会 ビオストーリー』15: 84 - 98. (査読付き)

Masuno, T. and T. Tsuji 2011. “Preliminary Report about Current Situation of School Attendance of Palaw’an People in Hillside Village in Palawan Island, Philippines.” In: ICER2011 ed. *Proceedings of International Conference on Educational Research 2011* (ICER2011): Learning Community for Sustainable Development. Thailand: Khon Kaen University. pp. 1310-1317. (査読付き)

Masuno, T. and T. Tsuji. 2011. “Current Situation of Family Livestock Husbandry in the Hillside Villages of Palawan Island, Philippines.” In: SAADC2011 ed. *Proceedings of the 3rd International Conference on Sustainable Animal Agriculture for Developing Countries* (SAADC2011): Volume III. Thailand: Jaopraya Printing. pp.117-121. (査読付き)

〔学会発表〕(計29件)

ポスター発表には，ポスター発表と明記した．それ以外の発表は，口頭発表である．

国際学会等

Masuno, T., N. A. Luu Dam, V. D. Nguyen and P. J. Matthews. (December 12, 2013) “Use of aroids as fodder plants in a Yao community, northern Vietnam.” The XIth International Aroid Conference. (Army Hotel(Hanoi), Vietnam). (ポスター発表).

Masuno, T. (June 4, 2013) "Runners and the Issues They Face in Japanese Urban Areas: A Case Study at the Imperial Palace Garden, Tokyo." 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons. (Fujiyoshida City, Yamanashi Prefecture, Japan).

Masuno, T. (June 4, 2013) "Struggle to Occupy a Good Spot for Hanami ("Cherry Blossom Viewing") in Japan." 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons. (Fujiyoshida City, Yamanashi Prefecture, Japan) (ポスター発表).

Masuno, T., N. A. Luu Dam, V. D. Nguyen and P. J. Matthews. 2012. "Fodder sources and backyard pig husbandry in BaVi, Hanoi province, northern Vietnam." The 1st International Conference on Animal Nutrition and Environment (ANINUE 2012). Thailand: Pullman Raja Orchid Hotel, Khon Kaen. (ポスター発表).

Masuno, T. 2012. "Initial Observation of Muscovy Duck Trial in a Mien Hillside village, Northern Thailand". The 1st International Conference on Animal Nutrition and Environment (ANINUE2012). Thailand: Pullman Raja Orchid Hotel, Khon Kaen. (ポスター発表).

Nishino, T. and \*T. Masuno. 2012. "Current Situation of Small-scale Aquaculture in a Hillside Village, Northeast Thailand". The 1st International Conference on Animal Nutrition and Environment (ANINUE 2012). Thailand: Pullman Raja Orchid Hotel, Khon Kaen. (ポスター発表).

Masuno, T. and T. Tsuji (10 Sept. 2011). "Preliminary Report about Current Situation of School Attendance of Palaw'an People in Hillside Village in Palawan Island, Philippines". International Conference on Educational Research 2011 (ICER2011): Learning Community for Sustainable Development. Thailand: Khon Kaen University. Abstract p.338. (ポスター発表).

Masuno, T. (July 26, 2011). Changes in the upland agriculture of a Mien hillside village, Northern Thailand. The 11th International Conference on Thai Studies. Siam City Hotel, Bangkok, Thailand. (July 26, 2011). Abstract p350.

Masuno, T. (July, 26 2011). "Characteristics of Small-scale Family Poultry Production in a Mien (Yao) Hillside Village, Northern Thailand". The 3rd International Conference on Sustainable

Animal Agriculture for Developing Countries (SAADC2011). Suranaree University of Technology (SUT), Nakhon Ratchasima, THAILAND. Abstract p23. (ポスター発表).

Masuno, T. and T. Tsuji. (July, 26 2011) "Current Situation of Family Livestock Husbandry in the Hillside Villages of Palawan Island, Philippines". The 3rd International Conference on Sustainable Animal Agriculture for Developing Countries (SAADC2011). Suranaree University of Technology (SUT), Nakhon Ratchasima, THAILAND. Abstract p48. (ポスター発表).

国内学会・研究会等

増野高司 (2014年2月16日)「掛燈儀礼調査報告」『ヤオ族文化研究所研究会』東京学芸大学(東京都小金井市)。

増野高司 (2013年9月28日)「弘前公園における花見活動 - 花見客の分析から - 」『2013年日本地理学会秋季学術大会』福島大学(福島市)。

増野高司・中須賀常雄・岸本司 (2013年9月28日)「マングローブの保全と地域社会 - 漫湖公園(那覇市)の事例 - 」『2013年日本地理学会秋季学術大会』福島大学(福島市)。(ポスター発表)。

増野高司 (2013年7月7日)「花見と場所取り - 上野公園の事例 - 」『生き物文化誌学会第11回学術大会』星薬科大学本館・百年記念館(東京都品川区荏原)。

増野高司 (2013年6月9日)「タイ北部のミエン族山村における「伝統的」農業技術の衰退 - 陸稲の収穫技術に着目して - 」『日本文化人類学会第47回研究大会』(慶應義塾大学三田キャンパス)。

増野高司 (2012年12月1日)「ミエン族の暮らしと「乳」利用」京都大学東南アジア研究所共同研究『乳利用の有無からの牧畜論再考 旧・新大陸の対比(研究代表者:平田昌弘)』京都大学東南アジア研究所。

増野高司 (2012年10月6日)「花見と公園管理 大阪府の事例」『2012年日本地理学会秋季学術大会』神戸大学。

増野高司・中須賀常雄・岸本司 (2012年10月6日)「マングローブと河川管理 石川川(うるま市)の事例」『2012年日本地理学会秋季学術大会』神戸大学。(ポスター発表)。

増野高司 (2012年7月14日)「タイ北部の山村における陸稲耕作作業をめぐる社会関係 - ミエン(ヤオ)族と陸稲との関係 - 」『生

き物文化誌学会第 10 回学術大会』福岡(ポスター発表).

増野高司(2012年7月7日)「タイ北部の農村における高齢者の暮らし: ミエン族の事例」『日本タイ学会第 14 回研究大会』大阪大学吹田キャンパス.

増野高司(2012年6月24日)「タイ北部のミエン族山村における村外居住の実態把握に向けて」『日本文化人類学会大会』広島大学(ポスター発表).

増野高司・中須賀常雄・岸本司(2012年3月28日)「沖縄島におけるマングローブ利用の地域性」『日本地理学会』首都大学東京.

増野高司(2012年3月28日・29日)「農村開発プロジェクトに対する住民の対応: タイ北部の山村における家畜導入の事例」『日本地理学会』首都大学東京(ポスター発表).

増野高司(2012年3月25日)「パラワン島における丘陵地農業の変容過程の解明にむけて」『日本オセアニア学会』倉敷市芸文館.

増野高司(2012年3月18日)「タイ: 牛の林間放牧」『一般シンポジウム モンスーンアジアの家畜文化を考える』牛の博物館.

増野高司(2011年11月12日)「タイ北部の山村における陸稲品種の多様性とその利用 - ミエン(ヤオ)族と陸稲との関係 - 」『生き物文化誌学会第 9 回学術大会』東京農業大学世田谷キャンパス. プログラム・抄録 p.23.

増野高司(2011年9月17日)「フィリピン・パラワン島における丘陵地農業の変化に関する予備的報告」『日本熱帯農業学会第 110 回講演会』信州大学農学部(伊那キャンパス).

増野高司(2011年7月2日)「山地民の都市部における生活実態の把握に向けて - ミエン族の山村出身者を事例として - 」『日本タイ学会 第 13 回研究大会』愛知大学豊橋校舎 5 号館.

増野高司(2011年6月25日)「タイ北部の山村におけるイヌ飼育 - 個体数管理の方法について - 」『ヒトと動物の関係学会第 17 回学術大会』東京大学農学部.(ポスター発表)

〔図書〕(計 2 件)

増野高司(2013)「アジアの焼畑」片岡樹・シンジルト・山田仁史(共編)『アジアの人類学 (シリーズ来たるべき人類学 4)』春風

社. pp.107-151.

増野高司(2013)「日本の花見に集まる人々 - 大阪府における公園の空間利用の事例 - 」池谷和信編『生き物文化の地理学(ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第 2 巻)』海青社. pp.325-348.

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

増野 高司 (MASUNO, Takashi)  
国立民族学博物館・民族社会研究部・外来  
研究員  
研究者番号: 40569159

### (2) 研究分担者 なし

### (3) 連携研究者 なし